

在ペナン日本国総領事・町田です。

年度末お疲れ様でした。本年3月の総領事（館）活動報告をさせていただきたいと存じます。なお、これら活動の一部については別途、総領事館HP・FACEBOOK、総領事X等でも紹介しておりますので、併せ御笑覧ください。

2月28日に勃発した米国・イスラエルによるイラン攻撃が中東地域のみならず、世界に大きな波乱をもたらしています。今後、5月に予定されているトランプ米国大統領の中国訪問までに何が起るのかが焦点になりそうです。

マレーシア／ペナンで気になることは、特殊詐欺事件の横行です。元々、詐欺事件の国際化は明らかなどころでしたが、この半年ほどは、カンボジアでの取り締まり強化も相まって、マレーシアで特殊詐欺が横行しており、中国人など外国人が自国国民を標的にするケースが多発しており、遺憾ながら、日本人も検挙される始末です。特殊詐欺事件については、以下のように総領事館も注意喚起を行なっていますので、是非ご一読願います。

https://www.penang.my.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_01435.html

3月は総領事館も人事異動の季節でした。首席領事には、前任の黒江（現・在チェンマイ総領事館首席領事）に替わって矢間（やざま）が着任し、領事担当には前任に替わって吉川（よしかわ）が着任しました。今後とも、総領事館の活動を充実させていきますので、益々のご指導ご鞭撻をよろしく願いいたします。

ペナン外への出張等については、3月9日、タイ国境地帯のクダ州シントックのマレーシア北部大学（UUM）を訪問しました（詳細下記）。

この他、当館各担当官は必要な用務出張を行なっております。

私共としては、北部6州の関係者・関係機関を幅広く訪問して人脈を形成し、当地事情をより深く詳細に理解していきたいと考えております。

政治・行政・経済・外交面では、

4日、在ペナン・インドネシア総領事館において、第6代副大統領の逝去に際しての弔問記帳を行ないました。今後も、東南アジアの友好国であるインドネシアとの関係を大事にしていきます。



11日、MATTA（マレーシア旅行業協会：Malaysian Association of Tour and Travel Agents）ペナン支部のラマダント食会に出席しました。日本・マレーシア間の相互観光促進は一つのテーマであり、今後、MATTAなどの旅行業関係者とは接触をしていきたいと思ひます。

21日、ダト・ラフィック当地パキスタン名誉領事（マレーシア名誉領事団長）のハリラヤ・オープン・ハウスに出席しました。チヨウ・コン・ヨウ首席大臣夫妻も参加する盛大な会であり、官界等の何人かの知人と挨拶を交わすことができました。



26日、ペナン・ポート社のサセダランCEOを矢間新首席領事等と共に訪問しました。面談においては、イラン戦争からの影響を含むペナン・ポートの現状、今後の展望、拡張計画に係る課題などについて聴取し、また、日本企業の活動についてもお話を伺いました。また、現場の視察では、今後の港灣浚渫



のお話を伺い、また、貨物コントロール・センターでは人員訓練のお話などを伺いました。ペナンの重要施設であるペナン港には、昨年、豊橋市中高生が訪問しており、今後とも、かかる訪問を更に企画していきたいと思ひます。また、調査船などの寄港があれば、積極的に広報等していきたいと思ひます。

27日、ペナンマレー人協会主催のハリラヤ・オープン・ハウスに出席しま



した。州長や首席大臣、ペナン州警察長官も出席し、来年の100周年のロゴも発表されるなど盛況でした。本務領事として、日本のみが招かれていたのは光栄でした。

28日、60歳以上の高齢者向けに社会参加・健康維持・趣味活動の場を提供する地域拠点であるPAWE (Pusat Aktiviti Warga Emas) Jelutong 支部に伺い、ハリラヤ行事に参加しました。このイベントは、同支部支部長である Dato' Seri Lawrence Cheah 氏主催であり、ペナン州長



夫妻、Jelutong 選出の連邦議会議員サニスヴァラ・ネタジ・ラヤー (Sanisvara Nethaji Rayer a/l Rajaj) 氏、リム・ファイ・イン女性・家族・地域社会開発省副大臣、



Datuk Ir. Rajendran P.

Anthony ペナン市長も出席していました。以前総領事館に来訪された Cheah 氏のご説明では、マレーシア/ペナンも急速に高齢化が進む中で、



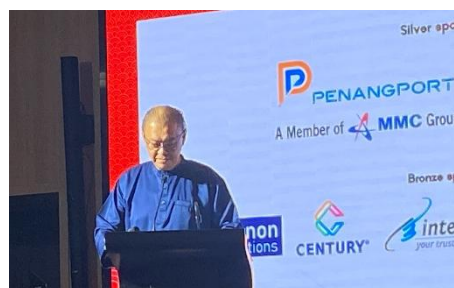
PAWEは60歳以上の高齢者のためのコミュニティを形成する一助となっているようであり、連邦政府・ペナン州政府・ペナン市による支援対象になっているようです。今後、日本文化紹介等で連携していく可能性がありそうです。

31日、ペナン市内で、M I C C I (Malaysia Chamber of Commerce and



Industry) ペナン・北部マレーシア支部主催の中国正月・ハリラヤ祝賀昼食会に出席しました。この昼食会は、華人・イスラム双方の祝日を祝いつつ、M I C C I 活動の更なる振興を目指すものであり、チョウ・コン・ヨウ首席大臣も出席して祝辞を述べる盛大なものでした。首席大臣やペナ

ン・ポートCEOなど旧知の皆さんと有意義な会話ができました。ブライアン・タン支部長は当地フマキラ社の社長であり、テクスケム社の元CEOですが、親日家であり、今後ともM I C C I 共々関係を深めていきたいところです。



今後とも、当地行政機関等との関係を深め、また、様々な人や組織を繋げることによって、当地の日本人・日本企業の皆様等の活動へのヒントをもたらすことができたら良いと思っています。

日本人社会との関係 (出張部分除く) では、

5日、ペナン日本人墓地において挙行された令和8年春の彼岸法要に参加し、ご挨拶すると共に、献花いたしました。ご挨拶は、以下の通りです。総領事館は、日本人社会共通の財産を維持管理していただいているペナン日本人会に対して政府支援を提供しております。



この日本人墓地に眠る皆様がペナンに確かな足跡を残していただいたことに心から感謝申し上げます。ペナンを含むマラヤ半島に、日本人が足跡を刻んだのは明治時代以来と承知しております。ここペナンにおいては、海外雄飛のために社命によって渡航された方、心ならずも当地で暮らすことになった方々、さらには国の政策のために当地に渡航された方が多数おられたと存じます。そういった大勢の皆様の中で、当地に骨を埋めることになった皆様が今ここに眠っておられます。皆様が懸命に生きてこられた上に我々があります。ありがとうございます。

日本人墓地は、ペナンの日本人の有志の方々によって維持管理されて参りました。ある時期からは、在ペナン日本人会がその維持管理をしております。過去の皆様を忘れないこの思いで、日本人墓地の維持管理が現在までも続けられ今後も続けられています。過去の日本人の皆様、さらに現在のペナン日本人会の皆様に心から敬意を表します。

ペナン日本人会に代表される日本人社会のもう一つの重要な職務は、日本人学校の運営であります。そして日本人学校生徒は皆様のペナンでの生活を忘れぬため、また感謝の気持ちを忘れないため、定期的に日本人墓地の清掃をしております。過去を忘れず、将来の希望である日本人の子供たちを育成する。これは私を含め、ペナンの日本人社会が今後とも引き継いでいく強い思いであります。願わくば、ペナン日本人墓地に眠っておられる皆様の魂魄が我共の希望である子供たち、我共の未来を今後とも見守っていただくことを祈念いたします。

改めて、御霊が安らかなることをお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

3月12日、ペナン日本人学校の令和7年度卒業証書授与式に出席し、来賓として以下の通り挨拶申し上げます。規律がありながらも温かく、素晴らしい卒業式でした。

日本人学校の運営は、日本人墓地の運営と共に、ペナン日本人社会のために重要な事業です。総領事館は政府支援を行ない、日本人学校をサポートしてまいります。



ただいまご紹介に預かりました在ペナン日本国総領事の町田です。おはようございます。

本日は、ペナン日本人学校の令和7年度卒業証書授与式にお招きいただきありがとうございます。今回、中学部7人、小学部12人の児童生徒の皆さんが卒業されると伺っております。おめでとうございます。

長い歴史を刻んだ旧校舎に昨年別れを告げ、この新しい校舎で再出発をした日本人学校ですが、ペナン日本人会学校運営委員会、斉藤校長先生、田川教頭先生を始めとする教職員の皆様、また、児童生徒を支える保護者の皆様のご尽力により、このような立派な式典が開催されることに、心からの敬意を表します。

この春卒業される児童生徒の皆さんを含め、ペナン日本人学校の児童生徒の皆さんは、私たちの未来の希望です。日本の教育課程による小学校、中学校の教育は、文字通り、「日本人を創る教育」だと私は思っています。日本人としての良き伝統を重んじ、児童生徒の能力を高め、社会に貢献する人材を育成していく。これはまさに崇高な取り組みであると思っています。

中学部卒業の皆様は、今後、高校に入学し、より大人に近づくこととなります。その中で自分が社会で何をしたいかということを考え始めることになると思います。その中では、小学校中学校の9年間で培った自分の力が大切になります。今後もその基礎的な力を信じて学びを続けていってください。

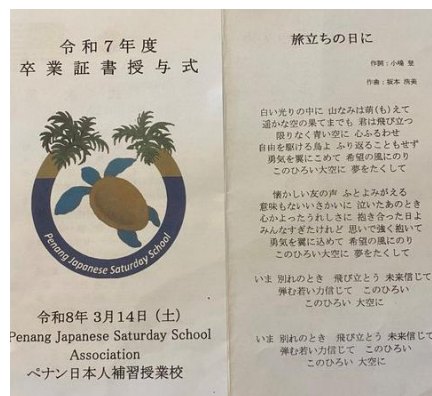
小学部卒業生の皆様は、小学部の1年が経つことに自分ができることが増えていくことを感じたと思います。お友達と学校で過ごす中で、みんなで何かを作り上げることの楽しさも経験しているのではないかと思います。今後は、中学生として、小学生のお友達を助け、先輩と共に益々成長されることをお祈りします。

日本人学校は、先人の思いが詰まったペナン日本人社会の宝であります。そして、日本人会学校運営委員会、学校教職員及び保護者に皆様三位一体となって、その宝を今後も守っていかれるものと確信しております。総領事館としても、政府支援をお届けするという立場から、力一杯協力いたしていく所存であります。

最後に、改めまして、卒業証書授与式にご招待いただきましたことに感謝を申し上げ、また、本日ここに参集された皆様全てのご多幸とご発展を祈念いたします。

令和8年3月12日 在ペナン日本国総領事 町田信也

14日、ペナン日本人補習授業校の卒業証書授与式に出席し、来賓として以下の通り挨拶申し上げます。米国ニューヨーク勤務中には、私の長女も補習校に通ったことがあり、補習校の重要性はよく承知しております。日本とマレーシアの架け橋になりうる子供達が育つことを期待し、政府支援をお届けしています。



おはようございます。ただいまご紹介に預かりました在ペナン日本国総領事の町田です。

本日は、ペナン日本人補習授業校の令和7年度小学部・中学部卒業証書授与式にお招きいただきありがとうございます。今回、小学部7名、中学部2名の児童生徒の皆さんが卒業されると伺っております。おめでとうございます。

本日、西尾学校運営委員長、田中事務局長、先生方、また、児童生徒を支える保護者の皆様のご尽力により、このような立派な式典が開催されることに、心からの敬意を表します。

この春卒業される児童生徒の皆さんを含め、ペナン日本人補習授業校の児童生徒の皆さんは、日本とマレーシアの友好を望む私たちの未来の希望です。月曜から金曜の間、インター校などでの勉強に加えて、最大では9年間の日本語での学びを続けていくことは、児童生徒の皆さんにとって、今後、計り知れない財産になることは間違いありません。マレーシア・ペナンという素晴らしい場所で、日本の文化を教え、児童生徒の能力を高め、社会に貢献する人材を育成していく。これはまさに崇高な取り組みであると思っています。

中学部卒業の皆様は、今後、高校に入学し、より大人に近づくこととなります。その中で自分が社会で何をしたいかということを考え始めることになると思います。その中では、厳しい環境に打ち勝った小学校中学校の日々が皆さんの大きな力になります。今後もその力を信じて学びを続けていってください。

小学部卒業生の皆様は、土曜日の数時間という時間であっても、小学部の1年が経つことに自分ができることが増えていくことを感じたと思います。お友達と学校で過ごす中で、みんなで何かを作り上げることの楽しさも経験しているのではないかと思います。今

後は、中学生として、益々成長されることをお祈りします。

ペナン日本人補習授業校の児童生等の皆さんは、保護者の皆様の宝であるのみならず、ペナン日本人社会の宝であります。今後も、学校運営委員会・事務局、先生方及び保護者の皆様が三位一体となって、その宝を今後も守っていかれるものと確信しております。総領事館としても、政府支援をお届けするという立場から、力一杯協力いたしていく所存であります。

最後に、改めまして、卒業証書授与式にご招待いただきましたことに感謝を申し上げ、また、本日ここに参集された皆様全てのご多幸とご発展を祈念いたします。

令和8年3月14日 在ペナン日本国総領事 町田信也

3月31日、ペナン日本人定例理事会に矢間首席領事及び南野警備対策官（安全部会長）と共に出席しました。理事会においては、各部会の活動報告に加え、日本人会魅力向上活動についての活発な意見交換が見られました。今年度最後の理事会ということでもあり、今後の総領事館の業務目標などについて以下の通り発言しました。

3月12日、チェンマイに異動した前任の黒江首席領事の後任として、矢間（やざま）秀行が着任しました。経済担当も引き継ぎます。また、領事担当として、吉川徹が着任した。宜しくします。

明日（4月1日）から令和8年度だということもあり、また、新たな首席領事も得たということですので、来年度以降の総領事館の業務目標について述べます。

第一に、「在外公館として本来実施されるべきであったのに実施されてこなかった幾つかの業務」を行なうということです。例えば、表彰・叙勲。本件については、今後、日本人会とも非公式に相談することもあると思います。

第二に、「日本人社会との関係構築・強化／領事業務／日本企業支援」があります。これは、総領事館にとっては「一丁目一番地」の業務です。／ペナン日本人会との間では、日本人学校の運営、日本人墓地の運営、日本人会の魅力向上、「さくら会」の活性化といった点について、適度な距離感をもって協力していきます。／領事事務については、今後とも証明等国民の権利義務に係る事項、在外選挙等について適切に実施していくと共に、特異な治安事項については適切に共有してまいります。／日本企業支援については、先般、クリーム・ハイテク・パーク運営会社を往訪し、クリームで操業する日本企業の懸念・要望を伝達して善処を要望しました。今後も、必要に応じて係る取り組みを行ないたいと思います。なお、今後、州首席大臣との意見交換会合などを企画していきたいので、個別に相談したいと思います。

第三及び第四に、「日本の存在感向上のための広報文化・学術交流事業の実施・支援」及び「当地政治・経済・社会事情の把握」があります。各種活動・情報収集・人脈形成で

得た果実は、必要に応じ日本人社会に還元できるようにしたいと思っています。

今後は、係る点について毎月の理事会等で適宜、小官または矢間から報告していきたいと思っています。総領事館は日本人会／日本人コミュニティあつてのものです。今後とも連携していきたいと存じます。

領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは 総領事館業務の「一丁目一番地」です。当地日本人コミュニティの皆様や来訪者には、警備担当官から安全講習を随時実施しています。今後とも、皆様への治安情報の積極的な提供に努めていきたいと存じます。また、日本人コミュニティと当地コミュニティとの橋渡し、その中での日本企業支援なども積極的に、かつ、日本企業のご要望に添う形で実施して参りたいと存じます。

文化交流・報道・学術交流関係では、

3月2日、INTIカレッジにおいて、当地で約2週間研修を行なう信州大学学部生に対して、日本・マレーシア関係についての講話及び安全講話を実施しました。日馬関係講話では、両国の関係が50年以上にわたって成熟しているところ、今後は、より深い学術交流などを交えて、「課題先進国」である日本と「高所得国」となり、産業面でも高度化を続ける両国が共通の課題について共に解決して高めていく関係になり得るところ、信州大学の取り組みは、その意味で意義深いことなどを述べました。信州大学学生さん達は、この前日にペナンに到着したものの、すでにINTIカレッジの学生さん達と仲良くなっているところも見られるところ、研修の成果大なることを祈念します。INTIカレッジは日本語教育を充実させたいという意向を有しているところ、国際交流基金と繋ぐなどの側面支援をいたしました。



5日、ペナン州政府庁舎において実施された「2026 Hinamatsuri & Children Karate Competition」(15日開催)についての記者会見に出席し、一言述べました。この行事は、馬日協会

(Malaysian Japanese Society : M J S) の主催で、ペナン日本人会も協賛するものです。子供の健康と幸せを祈る伝統的

な日本のひな祭り文化を紹介すると共に、様々な日本文化の紹介を行なうものですが、今回は、当地空手団体とも連携し、日本の伝統的な武芸である空手の紹介も行ないます。なお、今回、(日本人もお世話になることもある) アドバンテス病院も協賛してブースを出し、健康診断・健康相談をするということです(日本文化行事にこのような要素が入ることは珍しく、今後の参考になるかもしれません)。

7日、ハンチャン高校 (Han Chiang High School) で開催された J A G A M 北部支部主催の「Study in Japan」セミナーに出席して挨拶し、また、説明を傍聴しました。

このセミナーでは、この地区を選挙区とはしないものの、J A G A M 北部支部と関係が深いコニー・タン・ペナン州議会議員も来賓で出席しました。このセミナーにはハンチャン高校等の学生さんが50名程度(女子学生がほとんど!)参加して大変盛況でした。J A G A M 側からは、文部科学省(MEX T)奨学金、J A G A M が東大等と連携して出している奨学金の説明があり、また、留学時の経験談がありました。マレーシアの親御さんは、お子さんの今後を考えて、医師、弁護士、会計士、エンジニアになってほしいという希望が多いと聞いています。J A G A M の Abe さん(USM 海洋研究所教授)は、留学体験談の中で、現在の高校生が社会人になった際に社会が求めるものは現在とは違っている筈であるので、理系・文系の別に拘ることなしに学ぶことの重要性を述べていたことが印象的でした。日本留学を真剣に考えている何人かの学生さんは親御さんと共に、J A G A M 北部支部メンバーを質問攻めに行っているのが印象的でした。私の挨拶で述べたように、質の高いマレーシア学生が日本留学をすることは、



学生たちに良し、日本の大学にとって良し、そして、日本・マレーシア両国の協力にとって良しということです。8月のより大規模な留学フェアに向けても J A G A M や日本の大学と連携していきます。

同日、セミナーが終わった後、「Penang History Gallery」を訪問し、また、「ツアーガイド協会」によるジョージタウン・ツアーに参加（3時間）しました。「Penang History



Gallery」は、民間経営の体験型歴史美術館であり、戦時中の描写にはきついものはありましたが、ペナンの人達の自己認識が分かったことは大変有益でした。ジョージタウン・ツアーでは、インド人街の知られざる面を知ることができました。



9日、PKTロジスティクス社のSHIPキャンパスにて開

催された「The International Halal Science and Technology Conference 2026」に参加し、挨拶をいたしました。PKTロジスティクス社の会長兼社長であるダトスリ・マイケル・ティオはマレーシアにおける大阪大学の代表を務めており、この大阪大学／USM共同の会議（マレーシア、ブルネイ、インドネシア、日本、カナダから政府・ビジネス・学術関係者が参集）をSHIPキャンパスで開催したものです。私からは、ハラル産業の重要性を認識した上で、日本の安全かつ良質な農産品をイスラム諸国に輸出するためにはハラル認証の標準化が必要であり、この会議でも



適切に議論されることを期待すると述べました。

同日、クダ州シントックのマレーシア北部大学（UUM）で開催された「UUM／KSU（京都産業大学）サマー・プログラム2026」の閉会式に出席して挨拶を行いました。このプログラムは、両大学の間で2020年からコロナで中断の2年間を挟んで毎年実施されているものです。KLやペナンとは違ってタイ国境近く的环境にあり、また、ビジネスに特化した大学（ロジスティクス業界への就職多数）で研修を行うのは、25名の京産大の学生さん（2年生）たちにとっては独特の経験だったでしょう。挨拶では、日本とマレーシア大学協力が活発なことを指摘しつつ、この経験が今後活かせることを祈念しました。



10日、ペナン州政府庁舎（KOMTAR）において、第一回ペナン盆踊り

大会（7月18日予定）実行委員会に出席しました（ウォン観光・創造経済担当E X C Oと共同議長）。今後、日本関係団体とともに、内容を詰めていくこととなります。

15日、ペナン市内のストレーツ・キー（Straits Quay）で開催された



「Hinamatsuri & Children Karate Competition」

の開会式に出席しました。このイベントは、記者会見の通り、馬日協会（M J S）が主催したものであり、開会式では、ウォン・ホン・

ワイ観光・創造経済担当E X C Oも挨拶をしていました。小ぶりのイベントでしたが、今後につながるものになりました。私からは、開会出席者に謝意を表しました。本年の日本文化行事の最初のものであり、今後、同様の取り組みを総領事館としても支援し、当地における日本の存在感を高めていきたいと思えます。



19日、ペナン市内において、「Kenny Loh Couture」のケニー・ローさん、バ



イロン・タムさん、「ピンク・ハイビスカス・クラブ」の山崎英美さん・リア

ン山崎さん（2025年ミス・よさこい）と懇談しました。「Kenny Loh Couture」は当地でクバヤの縫製及びクバヤ文化の発信を行なっている企業、また、「ピンク・ハイビスカス・クラブ」は「よさこいパレード」を主催し、着物文化の当地への紹介を行なっている団体です。この懇談では、ニョニャババ文化、着物とクバヤのフ

ュージョン、「よさこいパレード」についての協力、「ミス・インターナショナル」などについて意見交換しました。ケニー・ローさんは父母共にニョニャババの家系であり、近年、「ニョニャババ」が公式に民族の一類型となった後に初めて公式に認められた人物だということです。着物とクバヤの連携は、文化交流のみならず新たなビジネス機会に繋がりますので、今後もこのような形でやる気のある人達を繋ぐ試みを続けていきたいと思えます。

25日、総領事公邸において、当地で日本文化紹介・教育交流等に関与されて
いる団体・個人を招いてネットワーキング会合を開催しました。この会合には、M J S（馬日協会）、P J L S（ペナン日本語協会）、A L E P S（東方政策同窓生組織）、A O T S同窓生協会、合気道昭心会、ペナン合気道協会、ペナン無心館合気道道場、ハナバナ・ホビーズ、マレーシア柔道協会、日本空手

協会ペナン支部、小原生花協会、草月生花協会、中部・USM日本センター、たまふくカフェ、ペナン日本人学校、ペナン日本人補習授業校の皆様が出席されました。



この会合では、新任の矢間首席領事及び吉川領事も紹介しました。この会合は、過去1年の協力に謝意を表明し、また、今後、総領事館との繋がり及び相互の繋がりを作るための会合でした。和気藹々とした雰囲気の中、自然に今後のプロジェクト等について意見交換することができました。

27日、第19回ショパン・ピアノ・コンサートでマレーシア人として初めて入賞（共同5位）した Vincent Ong さん（ペナン出身）の凱旋コンサートに出席しました。ペナンでのコンサートは、ペナンでの音楽文化向上に取り組んでいる「Rondo Corporation」主催、マレーシア連邦政府、ペナン州政府の支援・後援で、PWCC（Penang Waterfront Convention Centre）で開催されたコンサートは、ペナン州長、ペナン州首席大臣、スティーブン・シム前人的資源相、リム・ファイ・イン女性・家族・地域社会開発省副大臣なども出席し、大勢の観客が出席した盛大なものでした。今回特筆すべきは、人的資源省傘下の「Talent Corp」が関与していることでした。配布資料を見ると、この機関は、政学産共同で才能ある人材を育成していこうという試みであるようです。

30日、ペナン市内にて、筑波大学マレーシア海外教育拠点支援室の五位野光主幹及びJAGAM北部支部リー副支部長、コー同支部委員と懇談しました。

五位野主幹は、31日にチョンリン高校で開催される留学説明会に出席のためのペナン来訪です。筑波大学マレーシア校（UTMy）は、我が国の「国策」としてマレーシアに進出、現在、少人数にて、学際的・問題解決型のコースを備えて引き続き学生を募集中です。この懇談では、改めてUTMyについて知り、また、また、マレーシアの教育制度（同一高校における公立過程とUECの混在等）について学ぶことができました。総領事館としては、今後、8月に開催される日本留学フェアの支援、大型イベントにおけるUTMyの広報などを検討していきます。



この懇談では、改めてUTMyについて知り、また、また、マレーシアの教育制度（同一高校における公立過程とUECの混在等）について学ぶことができました。総領事館としては、今後、8月に開催される日本留学フェアの支援、大型イベントにおけるUTMyの広報などを検討していきます。

総領事館 としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア 交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！

今後も、日本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

※以上の見解は、私個人のものであります。